

コウノトリ



毎週月曜日更新

カタカタ通信

第17号

「コウノトリとのつきあい方」

2022年4月11日



IPPM-OWS

先日、IPPM-OWSコウノトリ保全研修・報告会がありました。この会議は何かというと、コウノトリの保全を進めるため、全国の施設や機関が協力し情報共有をおこなう会議です。

その中で、コウノトリが産んだ卵をくわえて捨ててしまったという話がありました。私が以前飼育業務を行っていたこども動物自然公園でも似たことがあったそうです。そのコウノトリも最初の卵を産んだ時、前任のスタッフが少し離れた場所から撮影しようとするすると、卵を巢の外に捨ててしまいました。



こども動物自然公園のコウノトリ



展示場に入ると一番奥に逃げます。

そこで以前もコウノトリの飼育をしていた私は、人に慣れるよう徐々に距離を縮めることから始めていきました。まずは普段の作業から慣らしていきます。例えば、作業中じっと見てしまうとコウノトリは動きが止め、警戒します。なるべく別の場所を見ながらチラッと横目で見えるようにしていました。ドッジボールの時に左に投げると見せかけて右の人に当てる、あの感覚に似ています。そして、動くときは驚かさないようにゆっくりと歩きます。更に、コウノトリの逃げる方向を予測し、逃げ場を用意しながら動くことも大切です。これらに注意しながら、給餌以外にも除草したり、ネットに絡む蔓を取ったり、換羽で抜けた羽を拾ったり、ネットを繕ったりしていました。ストレスを与えないよう短時間で、回数を徐々に増やし、慣らしていました。

天空の里のコウノトリたちは、オスの空が思ったより慣れている様子で、メスの花は徐々に距離が縮まっているように感じます。



3月26日撮影

スタッフが乗せた巣材をコウノトリがならしています。

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター
飼育担当：しみじい